

日本語学習の場をつくること―複数レベル混在型クラス実践報告―

横溝みえ

¹ マイリポラン同志会日本語学校, マイリポラン, ブラジル
mielka@hotmail.com

キーワード - 日本語教育, 複数レベル混在型クラス, ブラジル日系社会, 学習の場, 協働学習.

論文要旨

ブラジルは学習者総数は増加傾向だが、日系日本語学校で学ぶ学習者は減少傾向にある。多様化するニーズに対応し、学びの多い学習の場をつくれなかと複式レベル混在型で文化活動協働学習中心のクラス運営を行った。学習者の発言やアンケート等の結果から、それぞれの学びがあり、学習意欲が増し、この地域にあった授業のあり方のひとつだとわかった。

1 はじめに

ブラジルの日本語学習者総数は2015年は22993名で、2012年の19913名から増加しており、ポップカルチャーや日本への憧れ等を受け、日本語熱は高まっているように感じられる。しかし、日系社会へと視点を変えると、日本人会運営日本語学校は学習者減少や後継者不足で閉鎖が増え、時代の変化にどう対応してよいのかと、学校や教室のモデルを模索し続けているようだ。

2018年、日本人会と学校再開の話が持ち上がり、複数レベル混在で文化活動中心の日本語学習の場を作りたいと会の役員に話したが、はじめは賛否両論、教師主導型「読み書き」中心の授業を望む人もいた。しかし、「教室というものはひとつの社会で、教師が知識や答えを伝える場でなく、学習者が問いという宝物を発見したり、知らないことの中で答えに近づいたり、知りたいという意欲を感じる場所」（細川2017、ALVEZ1994、FREIRE2018、PACHECO2010）であるべきではないかと話し合い、特に日本語能力向上だけを目的とせず、協働学習を行い、日本人会を活性化させる目的も併せ持つ「日本文化と日本語教室」をはじめることになった。

2019年、日本人会のSNSグループを中心に学習者募集を行い、10名の学習者が集まり、土曜朝はレベル混在（8名）で、水曜夜は初級後半（2名）、週に1回の90分授業を行うこととなった。本報告は複数レベル混在型クラスのみを取り上げる。

報告の目的はこのプログラムを、ニーズ調査、観察・発言記録、インタビューとアンケートをもとに、学習者の変化や日本語に対する考え方等を調べることを通じて、この地域にあった日本語学校のあり方の可能性を探ること、日系日本語学校での授業の一例を示すことにある。

2 学習者

学習者は9歳から70代まで、レベルは習い始めたばかりの人からコミュニケーションがとれる人までの8名であるが、クラスの多様性を示すため特に3名をとりあげる。

Aさんは10代で、両親に勧められたために仕方なく日本語学習をはじめ、モチベーションは低い。恥ずかしがりやで根気がある。当初「大切な土曜に日本語を勉強するなんてありえない。(筆者訳)」と話していた。CEFRのA1程度レベルの学習者である。

Bさんは20代で、日本へ短期留学旅行を計画中、祖母と日本語で話したいとモチベーションが高い。アニメが大好き、スポーツが得意で明るく素直な性格である。ひらがな既習、進んで自習することができるCEFRのA2レベル程度の学習者である。

Cさんは60代で、子供のころから日本語環境で育ち、日本語でコミュニケーションでき、特に聞く能力に優れている。書くことへの興味が強い。CEFRのB1(聞く話すはB2)レベル程度の学習者である。

3 調査方法

開始時のニーズ調査、カリキュラムと照らし合わせた観察・発言記録、前期終了時実施のアンケートとインタビューをもとに、学習者の日本語や学校に対する考え方や感想学習意欲の変化を調べる。

4 開始時のニーズ調査

ニーズ調査は、自由記述で行ったため、とても大まかな結果となってしまった。A日本語を習う意志がなく、関係ないという意志表示を受け実施なし。B「はなしたい、かきたい」「ぜんぶ」という答えだった。C「はなしかたとかきかたをならいたいです。」「ていねいに話したいです。」と答えた。

5 授業内容

表1 授業実施内容と学習者の発言・観察記録

	日付	授業内容	学習者Aさん	学習者Bさん	学習者Cさん
①	2/2	自己紹介(名前、好きな物)、折り紙	欠席(日本語に興味なし。行きたくない。)	日本語を全部習いたい。話したい、書きたい。	丁寧に話せるようになりたきれいに書きたい。
②	2/9	自己紹介、書道(名前、好きな言葉)	授業に参加したくない。妹の付き添いだけする。	苗字を漢字でかけてうれしそう。上手。	「ます」がでてこない。直してほしい。
③	2/16	節分(鬼の面、豆まき、歳の数)	大豆たくさん数えて笑った。日本語めっちゃ楽しい。	絵が得意。何も聞こえなくなるくらい集中していた。	大豆を生で食べてはいけなとを学んだ。
④	2/23	私の街にあるもの、自己紹介	折り紙が大好き。ひとりで折り方を調べていた。	自発的、積極的にどんどん発言できる。	街のことを話すのはおもしろかった。
⑤	3/2	料理(おにぎり)	欠席(家族の用事)	美味しくてきれいにできた。完璧な三角だ!	欠席(体調不良)
⑥	3/9	ひなまつり、浴衣私の街にあるもの	朝は大の苦手だが、早起きして来た。	自分の街について、動画を見てきた。	はじめて浴衣を着た。うれしい。
⑦	3/16	浴衣、私の街にあるもの録画	動画に顔が出るのは嫌だ。自己紹介スラスラ言える。	書くこと、描くことが大好き。街のことを調べた。	緊張したが、きちんと話せた
⑧	3/23	浴衣、街再録画、茶道体験	浴衣はかわいい。饅頭やお茶は信じられない代物だ	お茶はおいしかった。浴衣は変だ。	お饅頭がおいしい。お茶も好き、でもめんどうだね。
⑨	3/30	華道体験(作品タイトル・説明文を書く、発表)	みんなにほめられてすごくうれしい。	辞書を使って、知らない単語を調べることがよくある。	用事が終わってから急いで来た。花が好き。
⑩	4/6	イースター手紙(宝)探し(書く・探す・読む)	欠席(体調不良)	日本語でほめられてうれしい。手紙ありがとう。	手紙をもらってうれしい。姉に書けて感動。

⑪	4/13	かえる（歌と折り紙） 動物の擬音語	ブラジルと日本は動物の 鳴き声が違うの？	かえるの鳴き声は変だ。 違いがおもしろい。	日本とブラジルは違うね。 歌家族全員好きだよ。
⑫	4/20	料理（うどん）	包丁を使ったりするのが 大好き。	初めて作った。楽しかった。	うどんが一番好きだから 本当にうれしい。
⑬	4/27	オマトペ、運動会の旗、 書道・硬筆	自分の旗がきれいでできて うれしい！（父に自慢）	「運動会」等の漢字を自主 的に調べて書いていた。	硬筆の字が美しいとほめら れしそう。
⑭	5/4	こいのぼり、食べ物、 国歌比較、	母が持っているこいのぼり 意味がわかってうれしい。	日本とブラジルの国歌が 違いすぎて興味深い。	日本の国歌はなぜ二回歌う になっているのか？
⑮	5/11	オリンピックと運動会 ラジオ体操	母が運動会は楽しいと言っ た。賞品もあるの？	時間外に学校に来て、旗な どを書道で書いた。満足。	私は一生懸命カタカナを覚 えている。
⑯	5/18	運動会前日準備 飾りつけ、賞品準備	段ボールで遊んだこと が最高に楽しかった。	みんなに頼りにされて うれしそう。	自発的に家でたくさん書道 で旗を作成してきた。
⑰	5/25	運動会をふりかえる 感想、動詞	一番になった！雨の中電車 ごっこが最高だった。	自分の書いた大きな看板を 皆にほめられた。	家族も友人も集まり楽し かった。賞品もうれしなかつ
⑱	6/1	作品コンクール練習（書道 /元）硬筆「挨拶/オリンピ	ひらがな書きたい。残って 書いた。結果に不満。	知らないことにチャレンジする 姿勢がすばらしい。	カタカナを覚えたい。姉と 違うことをしたい。
⑲	6/8	作品コンクール （書道・硬筆どちらか）	欠席（家族の用事）	意味を辞書で調べ、納得し て学習することができる。	家で猛練習してきた。自 信を持っている。
⑳	6/15	アンケート、うどん会の練習 飾り付け	欠席（体調不良）	うどん会が楽しみだ。祖母 がくるのでうれしい。	あまり人前でたたくない。 うどん作りが楽しみだ。
○	6/22	うどん会（うどん作り、 飾り付け、歌発表）	超楽しい。休みは残念。 日本語お休みはிரらない。	飾りつけ責任者として大活 躍。考えて作成した。	発表は緊張したが、堂々と 発表できた。うれしい。
○	6/29	うどん会をふりかえる グラフ作成	欠席（家族の用事）	超すごかった。おいしかった 人前での発表は嫌い。	疲れました。おいしかった 次はてまきをしたい。

Aさんは日本語を習うことが嫌だったが、2/16に節分で、年配の学習者の方と一緒に笑顔で70粒ほどの豆をゆっくり数えた。家に帰って母親にこの一部始終を嬉しそうに話して、家族でこのことを喜んだとの報告を受けた。

Bさんは常に自分で学びを探しているようだ。6/1に、「春夏秋冬を学んだ。」と発表。誰かが「今日そんなことを学んだ？」と聞かれ、「『夏のオリンピック』を硬筆で書く際にいろいろ辞書で調べたり、他の学習者に聞いたりして、ついでに学んだ。」と答えた。

Cさんは4/6に、姉への憧れや感謝の気持ちを丁寧に書いた。「よかった、よかった。」と発言し、満足そうだった。姉妹の関係性がもっとあたたかいものになったように見えた。

6 アンケートとインタビュー結果

全員が授業は楽しいと回答し、その理由が具体的に記してあった。開始時はぼんやりとしていた目標も具体化していた。今後したいことを明確に言語化できたことから学習意欲が高まっているとわかった。

Aさんは「日本語学校はとても楽しく冬休みはிரらない。」と言い、「コンピューターで書くこと、読むことを学びたい。焼きそばを作りたい。」と意欲をみせた。

Bさんは「聞く話す読む書くぜんぶ学びたい。仕事に使える会話を勉強したい。」と返答した。唯一音楽には興味がなく、人前で発表することもはずかしいということがわかった。

Cさんは、「漢字で書くこと、読むことをもっと学びたい。」と返答した。食べ物で一番好きなうどんをみんなで作ったことが楽しかったので、次は寿司と手巻きを9月に作りたいという意見をくれた。

7 結果

3名の学習者の好変化はレベルも年齢も違うクラスだったからこそ生まれたのではないか。また、それぞれが世代も違う人達と触れ合うことも楽しく、学習者同士の学び合いも自然なかたちで生まれ、居心地のいい場所で日本語を楽しく学んでいるように見える。そして、学習者の反応はいつも教師の想像や期待とは違うものだった。日本人会のみなさんと一緒に行事を行うことができ、会員数も増えたり、日本人会の活性化にも一役買っているようだ。今回の調査で、複数レベル混在型クラスはこの地域にあったひとつの方法だとわかった。しかし、このやり方が全てではなく、合わない学習者もいるということを考えてクラス運営をしていくことも大切なのではないかと考える。

参考文献

- [1] 日下野良武 (2016) 「今、ブラジルの日系社会が危ないーブラジルにおける日本語教育ー」 『日伯国会議員連盟特別講演会配布資料』
- [2] 国際交流基金 (2017) 「海外の日本語教育の現状」 国際交流基金 (編) 『2015年度 日本語教育機関調査』 国際交流基金
- [3] 鈴木潤吉 (2003) 『ブラジルの日本語教育における「複式授業」：異能力混在型学級の指導法の改善を目指して』 北海道教育大学へき地教育研究施設 <
<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/1265/1/hekiken-58-13.pdf>> アクセス 2019/04/29
- [4] 福島青史・末永サンドラ輝美 「言語政策理論におけるブラジル日系人の日本語教育の諸論点」 (2016) 編著者 本田弘之・松田真希子 『複言語・複文化時代の日本語教育』 凡人社
- [5] 細川英雄 (2017) 「「日本語人」という生き方ーことばによって人は何をめざすのか」 『論集：「南米日本語教育シンポジウム 2017:南米における日本語教育の現在と未来ー日系社会のポテンシャル」』 p. 25-34.
- [6] José, Pacheco. (2012) Dicionário de valores. Editor SM.
- [7] José, Pacheco. (2007) Para Alice, com Amor. Cortes Editora.
- [8] Rubem, Alvez. (1994) A Alegria de Ensinar. Ars Poetica.
- [9] Paulo, Freire. (2018) Pedagogia da autonomia: saberes necessários à prática educativa. Paz e Terra.